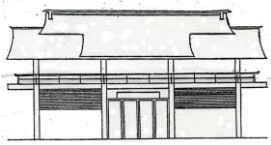


信濃美術館設立の経緯

(別紙 1)

長野県は縄文・弥生の古代から、固有の文化が芽生え育まれてきた。この貴重な文化財が損なわれ散逸するのを防ぐとともに、長野県で培われた近代の優れた芸術作品を集成して、信州人の心の故郷となる施設を願う県民の声を受け信濃美術館は、昭和 41 年 10 月に善光寺に隣接する城山公園内に建設された。

年 月	設立に向けた動き等
昭和 37 年 8 月	<p>信越放送株式会社が、長野市に信濃美術館を建設し、完成後長野県に寄贈する方針を発表</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px;"> <p>【基本計画】</p> <p>①縄文・弥生から現代までの文化財を集めた「信州人の心の故郷」となる施設</p> <p>②建設資金 1 億円を 3 年間で造成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「長野県に美術館をたてましょう」運動 5 千万円 ・信越放送株式会社負担金 5 千万円 <p>③ 2 階建て和風建築 (建築面積 1,500 m²)</p> <p>④信州から生まれた多くの逸材等を顕彰し、文化財の保護・地方文化の育成</p> </div> 
昭和 38 年 1 月	<p>信濃美術博物館建設委員会発足</p> <p>委員構成 知事・県教育委員長・市長会長・町村会長・信濃毎日新聞社社長・信越放送株式会社社長ほか</p>
昭和 40 年 3 月	<p>財団法人信濃美術館建設発起人会発足</p> <p>財団法人役員 理事長:知事、副理事長:信濃毎日新聞社社長</p>
昭和 40 年 8 月	<p>財団法人信濃美術館起工式</p> <p>城山公園(善光寺東隣)内の長野市公民館跡地に建設</p>
昭和 41 年 10 月	<p>財団法人信濃美術館開館</p>
昭和 44 年 6 月	<p>長野県信濃美術館として長野県に移管</p> <p>全国的にも県立美術館の設立は増加しており、社会教育法・博物館法の上でも社会教育の奨励に必要な施設を設置し運営し、県民の教育及び文化の発展に寄与する。</p> <p>そこで、財団法人信濃美術館を県立移管し、より一層の美術に対する県民の需要に応じる。</p>

信濃美術館建物の特徴

○設計のコンセプト

林昌二氏(昭和3年、東京都生まれ。「ポーラ五反田ビル」設計により、昭和46年度日本建築学会賞受賞)により設計された建物。

「美術品という中心を持った新しい市民会館的性格の建物」という考えにより設計された建物である。

建物に3種類の入口を備えることにより、美術館が3種の複合機能を持つ美術館であることを表す。

①幅広い利用に供するための展示会場としての動的な大展示室と、②郷土資料を中心として常時固定的に陳列する静的な空間、そして、③公民館的性格を持つ集合室、休憩喫茶室の3つの空間で構成されている。

設計のポイントは下記のとおりである。

設計のポイント	内 容
城山公園一帯の環境との調和	美術館の敷地は古い松林に囲まれていたため、美術館入口を、松林の間から城山公園に向かい“ぽっかりと”口を開き人を招き入れるよう設計。
長野駅から善光寺仁王門に到る一本道を考慮して建築の軸を設定	長野市は、善光寺を原点に造られてきた街で、長野駅から善光寺仁王門に至るまで、一本の登り坂による強い軸性がある。そこで、城山公園に建つ信濃美術館の軸も、善光寺の側面に向かい正対するよう設計。
はっきりとしたゾーニング	中央に公園広場と同じレベルでベルトを奥まで貫通させ、これを軸に左右に空間を展開させる。 美術館の入口は、スーパーマーケットのような日常性に被われてしまっは困るため、公園広場との間にレンガと白壁の広場を設けて心理的な転移が図れるよう設計。

○設計当初と現在の空間構成比較

区分	開館当初(昭和41年)の信濃美術館	平成27年現在の信濃美術館
動的な空間	大展示室	第1展示室、第2展示室、小展示室
静的な空間	郷土資料研究室、郷土美術室、郷土資料室	
公民館的空間	集会室、喫茶室、休憩室、ロビー	ロビー、講堂、Café Kaii、ショップ